

ちばだい
プレス

千葉大学広報誌



千葉大学の
9学部紹介!

特集

各学部の
ポイントキ
アポイント
を紹介!

徳久剛史
新学長に
聞く

特集

千葉大学の展望と、
学生の皆さんに
伝えたいこと

27

vol. 2014 APRIL

——最初に、学長就任にあたっての想いをお聞かせください。

徳久 学生の皆さんも存知のとおり、千葉大学では現在、全学的に「グローバル・キャンパス・千葉大学」をスローガンに掲げ、イングリッシュ・ハウスのオープン、留学支援、グローバルな人材を育成する柔軟なプログラムの方針といった、国際化に向けた取り組みが年々強化されています。これは、他大学も含めた一般的な流れではありますが、その中でも本学の取り組みは先進的だと感じています。私自身、平成23年より国際担当理事の職にあり、グローバル化を推進しているこの時期に学長として貢献できることを嬉しく思うとともに、大きな責任も感じています。

——学長ご自身も千葉大学のご出身ですが、何か思い出はありますか。また、今の千葉大学に対する印象はどのようなものでしょうか。

徳久 母校の学長に就任するという意味では深い感慨がありますね。大学時代の仲間たちとは今でも付き合いがありますし、研究者としてのキャリアも千葉大学とは深い縁があります。プライベートなことを話すと、私は学生結婚をしているのですが、その相手、つまり私の妻も千葉大学の同窓生です。私にとって千葉大学は、まさに人生の大きな位置を占めている存在だと言えます。

私が千葉大学に入学したのは、半世紀近く前の昭和42年です。西千葉キャンパスは、今でこそ建物も近代的ですし緑も豊かですが、私が学生だった頃は砂漠などと揶揄されるほど緑も少なく、当時を知っている身からすれば、よくぞここまで環境が良くなったと実感します。ここ数年を見ても、アカデミック・リンク・センターがオープンしたり、校舎の建て替えが進むなど、年々進化を続けている大学だと言えるとと思います。

4月1日より就任された徳久新学長に、

グローバル化をはじめとする千葉大学としての教育方針、専門である免疫学の道に進んだきっかけ、学生時代の話、プライベートのこと、学生へのメッセージなど、さまざまなトピックについてざっくばらんに語っていただきました。

——大学が果たすべき役割や使命とはどのようなものだとお考えでしょうか。

徳久 最も重要なのは、やはり人材の育成ではないでしょうか。ただし、「社会のニーズに合った人材を世の中に送り出す」といった言い方がありますが、私はこの考え方には疑問を抱いています。「こういう仕事があるから、その仕事ができる人材を育成する」というだけでは、単なる職業訓練になってしまいますし、ニーズを限定してしまうことで、各自が持っているはずの無限の可能性を狭めることにもつながってしまうからです。

大学というのは、何をやりたいのかを各自が主体的に考え、人間として成長する場です。そうした中で自分の可能性を見出し、社会の中のどのような位置で自分が求められ、また自分を生かしていけるのかを考えるべきだと思うのです。そして、「これだ」というものを見つけたときや未知の壁にぶつかったときに、立ち向かっていくことができる能力を身につけさせることこそ、私たちが重視すべき人材育成の姿だと考えています。

また、ニーズを限定しないという考え方は、総合大学として研究の多様性を維持するということの重要性にもつながっています。研究とは、すぐに結果が出るものばかりではありません。効率だけを求めてしまうと、喫緊のニーズがない研究を切り捨てることになってしまいます。これでは、多様な研究を維持することができませんし、結果として大きな成果を上げることもできないでしょう。すぐに脚光を浴びることのないジャンルでも、いつか社会の役に立つことを信じて、地道に研究を続けることも、大学の重要な使命だと、私は考えています。

——徳久学長は医学部のご出身で、免疫学を専攻されていますが、研究対象として免疫学を選んだ理由は、ど

大学は自分の殻を破る場所。
留学やクラブ活動などを通して
大きく成長してほしい。

徳久剛史 新学長に聞く

特集

千葉大学の展望と
学生の皆さんに
伝えたいこと



徳久剛史 (とくひさ・たけし)

昭和23年12月17日生

経歴

- 昭和48年 3月23日 千葉大学医学部卒業
- 48年 6月 8日 千葉大学医学部附属病院 医員(研修医)
- 49年10月 1日 国保旭中央病院 内科医師
- 50年 4月 1日 千葉大学大学院医学研究科博士課程入学
- 53年 4月 1日 留学(米国スタンフォード大学医学部)
- 55年 3月25日 千葉大学大学院医学研究科博士課程修了
- 55年 4月 1日 千葉大学医学部附属環境疫学研究施設研究員
- 55年 9月16日 千葉大学助手医学部附属環境疫学研究施設
- 58年10月 1日 客員研究員(ドイツケルン大学附属遺伝学研究所)
- 62年 1月 1日 千葉大学講師医学部附属環境疫学研究施設
- 62年 3月16日 神戸大学教授医学部附属医学研究国際交流センター
- 平成5年 4月 1日 千葉大学教授医学部附属高次機能制御研究センター
- 10年 4月 1日 千葉大学教授医学部
- 10年 4月 9日 千葉大学教授大学院医学研究科
- 13年 4月 1日 千葉大学教授大学院医学研究院
- 17年 4月 1日 千葉大学大学院医学研究院長 併任(21年3月まで)
- 23年 4月 1日 千葉大学理事(研究・国際担当)
千葉大学教授大学院医学研究院 兼任
- 26年 4月 1日 千葉大学長

学位

医学博士(千葉大学 昭和55年3月25日)

専門分野

免疫学, アレルギー学, 腫瘍学, 分子生物学

学会活動等

日本免疫学会, 日本アレルギー学会, 日本分子生物学会, 日本癌学会

座右の銘

「諸行無常」

海外留学でキリスト教的な価値観に触れたことで、日本に根づいた仏教的な価値観を見直すきっかけになりました。それで出会ったのがこの言葉です。同じ状況はいつまでも続きません。うまくいっていないときには、やがて潮目が変わると希望を持ってほしいし、逆にうまくいっているときには、油断への戒めや悪化したときの備えとする——、私なりの解釈で座右の銘としています。



千葉大学の方針として、
これからもグローバル化を推進し、
学生の皆さんの留学を応援します。



のようなものだったのでしょ。

徳久 もともとのきっかけは、3年生の時の微生物の講義で、人間が免疫システムでウイルスや細菌といった異物から身を守っていることを知り、面白い分野だと思ったことです。免疫学という学問は、当時、とても新しいジャンルでした。今でこそ、「免疫力」などという言葉が普通に使われますが、私が学生だった当時は免疫学の勃興期で、詳しいことはほとんどわかっていませんでした。「こんなに大事なことが知られていないのなら、時間はかかっても、自分が研究者として道を切り拓こう」という気持ちがあったことを記憶しています。大学卒業時に医師免許を取得し、いったんは臨床医として勤めましたが、自分を取り組みたかった免疫学

の研究を諦めることは、自分の可能性を狭めることだと考え直し、悩んだ末に博士課程に進むことを決めました。臨床医としてのやりがいのある人生よりも未知の分野に挑戦したいという気持ちや新しい知見を得る楽しみを選んだんですね。

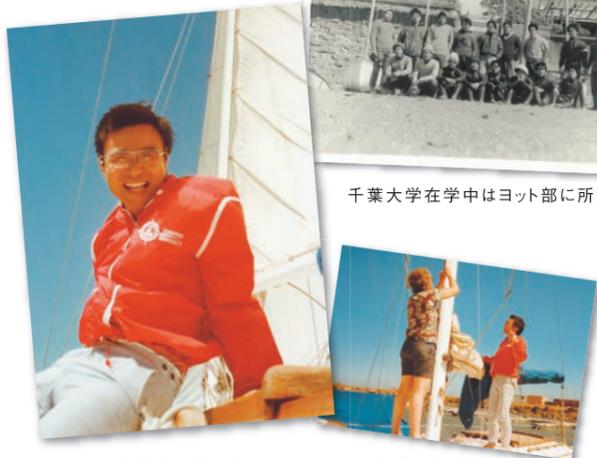
——先ほど、グローバル化の重要性についてお話をいただきましたが、学長ご自身はどのような留学体験をお持ちなのでしょう。

徳久 私が長期留学したのは、大学院時代からその後の研究員時代にかけての二度です。一度目は大学院時代の米国スタンフォード大学、二度目は博士課程修了後に客員研究員として、ドイツのケルン大学附属遺伝学研究所へ行きました。世界が広いことを実感するこ

徳久 ヨット部でした。私は、クラブ活動はとても重要なものだと考えています。クラブ活動というのは、社会生活のコミュニケーションです。仲間と力を合わせ、目標に向けて努力することを通して、チームワークや生き方をはじめ、さまざまなことを学ぶことができます。生涯の財産になるような人脈を築くこともできます。学生の皆さんには、ぜひ積極的にクラブ活動に参加してほしいと思いますね。



千葉大学在学中はヨット部に所属



大学院時代は米国スタンフォード大学へ留学

クラブ活動でも、チャレンジするという気持ちで取り組みました。私が初めての海外留学を体験したのは博士課程に入ってからですが、皆さんは学部の4年間の中でも留学できる機会が用意されています。ぜひ、自分の可能性を伸ばすために、こうした機会を利用してください。

千葉大学の学生は、とても素直でバランスのとれた考え方をする学生が多いというのが、私の印象です。この素直さや誠実さをなくさずに、留学やクラブ活動などを通して視野を広げていけば、必ず社会で自分を生かすことのできる人材になれるでしょう。私自身も学長という形で、新たな挑戦の機会をいただきましたので、これからまだまだチャレンジしていただきたいと考えています。学生の皆さん、ぜひ一緒に成長していきましょう。

千葉大学の9学部紹介!

各学部の
アピールポイントを
イチキで紹介!

特集

食・緑・健康を
テーマに学ぶ

園芸学部

園芸学科 / 応用生命化学科 / 緑地環境学科 / 食料資源経済学科

- 食料や資源、開発、環境、健康、生命など多様な課題に取り組みます。
- 実習や演習は少人数体制で実施。課題を柔軟に解決する能力を養います。
- 海外留学や外国人留学生との交流を通じ、広い視野を身につけられます。



園芸学部 滝口 祥春さん

松戸キャンパス

千葉大学では、自ら幅広い視野を持った学生を育成を目指しています。学部を超えた交友関係を広げ、実り豊かな学生生活を過ごすことによるPRをお届けします。

知的好奇心から始まる学問

文学部

行動科学科 / 史学科 / 日本文学科 / 国際言語文化学科

- 少人数授業を通して自分の関心をどこまでも掘り下げられます。
- 科目選択の自由度が高く、人文科学を幅広く学べます。
- 国際的に活躍している教員が多数所属しています。



文学部 小黒 歩実さん

変化に対応できる教師を育成

教育学部

小学校教員養成課程 / 中学校教員養成課程 / 特別支援教育教員養成課程 / 幼稚園教員養成課程 / 養護教諭養成課程 / スポーツ科学課程 / 生涯教育課程

- 各学年で教育実習を行い、教師としての実力を養えます。
- 千葉県内の経験豊富な現役教師に学ぶことができます。
- 「よい教師」を目指すための指導とカリキュラムが用意されています。



教育学部 宮本 裕里さん

西千葉キャンパス

理論と実践により
看護を体得

看護学部

看護学科

- 国立大学で唯一の看護学部です。
- さまざまな実習で理論を実践し、看護の精神と専門知識を体得します。
- 看護をより専門的に学ぶための大学院看護学研究科もあります。

臨床医と研究医を育成する

医学部

医学科

- 明治7年に有志の寄付によって設立された共立病院が原点。
- 患者と直接対応する臨床医と基礎医学を追究する研究医を育成します。
- 薬学部、看護学部と連携してチーム医療とコミュニケーション能力を修得します。

亥鼻キャンパス

薬学を通じて
人を健康にする

薬学部

薬学科 / 薬科学科

- 薬学の目的は「人類の健康、福祉に貢献する」。
- 3年進級時に研究職を目指す4年制と、薬剤師を目指す6年制を選択。
- 自分の学説を他者に理解してもらうための論理的に説明する力を身につけられます。



工学部 松延 瞬さん

産業を支える
多様な10学科

工学部

建築学科 / 都市環境機械工学科 / メディナノサイエンス学科 / システム学科 / デザイン学科 / カルシステム工学科 / 電気電子工学科 / 共生応用化学科 / 画像科学科 / 情報画像学科

- ロボットからでもづくり
- 英語力強化、ケーションを
- 震災復興をはを展開してい

自然界の未知なる
真理を探求

理学部

数学・情報数理学科 / 物理学科 / 化学科 / 生物学科 / 地球科学科

- 1~2年は理学の基礎をしっかりと学びながら、自分の興味を探し当てます。
- 科学的な発見を裏付けるための論理的な思考法を徹底的に学習。
- 理学者としての倫理を養い、持続可能な社会の発展について学びます。

問題を読み解く
力を学ぶ

法政経学部

法政経学科

- 社会に貢献する「問題解決のプロフェッショナル」の育成を目指します。
- 専門を究め、かつ学際的に学ぶ「開かれた専門性」を大切にしています。
- 総合大学の利点を活かし、多角的な視点や考え方を身につけられます。



法経学部 長縄 祐美子さん



法経学部 藤居 優子さん



さまざまな芸能が仏教と結びついていた平安末期から鎌倉時代にかけての文学や文化を題材に、仏教經典の読経の復元を中心とした研究を行う柴佳世乃教授。中世文学研究の面白さや取り組んでいる授業などについてお話を伺いました。



演習授業で学生たちは、古典の資料と触れ合い、自ら解釈し、日本語として美しい現代語訳を目指す。

普通教育科目の授業「伝統文化をつくる」では、毎年、房総の伝承をもとにした創作狂言を制作。千葉県文化会館などで上演しています。



左 書寫山圖教寺から提供された図絵。こうした資料から当時の生活や文化を読み解くのも研究の重要な一部。
右 柴教授の著書『読経道の研究』。読経道と出会ったときには、「眠れなくなるほど興奮しました。」(柴教授)

中世文学の研究を通して当時の人々の息吹や世界観に触れる

—先生が取り組んでおられる研究について教えてください。
私の専門分野は日本の中世文学ですが、文学といっても、単に文学作品だけを扱うわけではありません。平安末期の院政期から鎌倉時代にかけては、音楽や歌謡といった音声にかかわる文化が深みを増していく時期に当たります。また、さまざまな芸能が仏教と切っても切れない関係だったため、たとえばお経を読むという行為が「芸」として表現されるといったことも出てきます。私が自分の研究の中心に据えている読経道というテーマは、仏教の法要で唱えられる經典「法華經」がどのように読まれたかを研究するものです。

—読経道の研究とは具体的にどのようなものなのでしょうか。
先ほど、さまざまな芸能が仏教と密接に結びついているという話をしましたが、その流れの中で、1100年代後半から1200年代にかけて、經典に書かれた文言を音曲的に読むということが行われるようになりました。もともと読経というのは音楽的なのですが、ルールや読み方が形づくられ、「道」になっていったのがこの時代なんです。ところが、こうした經典の読み方は次第に廃れていき、完全な形で残っているものはありません。私が研究フィールドとして通っている兵庫県姫路市の書寫山圖教寺でも、前近代から続いていた読経音曲が明治時代初期の廃仏毀釈で途絶えてしまいました。わずかに残る記録や資料をもとに、こうした読経音曲を復元させたいというのが私の目標です。私が読経道という分野に出会ったのは10年以上前ですが、研究はまだまだ端緒を開いた段階で、私のライフワークと言えると思います。

—文学・文化研究の醍醐味とは、どのようなものなのでしょうか。
これは特に古典の場合に言えると思うのですが、資料を読み解いていくことで、当時の人々がどんなことを考え、どのような世界観を持ち、どんな空気を吸っていたかを感じることが出来る点ではないでしょうか。さまざまな資料を的確に位置づけ、点から線に、線から平面に、さらには立体にしていくことで、文学史に出てくるような人物がまるですぐ隣にいるような感覚になるんです。私が読経道の研究することになったきっかけも、最初は資料との出会いでしたが、「自分はこれでやっていこう！」という実感がありましたし、読経音曲の復元はまさに、点から始めて立体にしていくという作業だと言えます。学部の講義では、中世文学をはじめとする古典文学を幅広く取り上げていますが、こうした研究の醍醐味は、学生にも味わってほしいと考えています。私は全学向けの普通教育科目で、「伝統文化をつくる」という授業を共同で担当していますが、これは千葉大学の地元・房総の伝承をもとに創作狂言を制作し、和泉流の狂言師の指導のもと舞台化するというものです。単に調べるだけでなく、創作物として表現するというのは、伝承を真に理解するという点では効果的です。多くの学生にお勧めしたい授業です。

—では、最後に学生へのメッセージをお願いします。
考え方にしろスキルにしろ、これから自分が生きていく上での根幹と言えるような部分を築いてほしいですね。たとえば、古典の研究を通じて私が実感するのは、情報を取捨する能力の大切さです。資料や伝承の中には、信用できるものもあれば事実無根のものもあり、それを見分ける眼や、断片的な情報を結びつけていく想像力が必須です。こうした能力を磨くことは、情報にあふれた現代社会では特に役立つでしょう。また、読み解くだけでなく、自分でどう表現していくかという点も重要です。社会はさまざまな人で構成されているので、自分が果たすべき役割を見つけることができれば、自らを生かすことができます。そういう意味でも、いろいろな人と関わり、いろいろな体験をしてほしいですね。



柴佳世乃(しば-かよの)
千葉大学文学部教授。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程(比較文化学専攻)修了。日本学術振興会特別研究員を経て、2001年より千葉大学に着任。専門は中世日本文学。とくに説話文学、仏教文学研究。目下、中世期の読経音曲の復元に取り組んでいる。

vol.27



I N D E X



02 特集 徳久剛史 新学長に聞く
教育方針からお人柄、学生時代のエピソードまで

06 特集 千葉大学の9学部紹介！
9学部、それぞれの良いところをアピール

08 研究室訪問
中世文学の研究を通して
当時の人々の息吹や世界観に触れる
—千葉大学 文学部 日本文化学科
日本語文化論講座 柴 研究室—

10 もっともっと知りたい千葉大学
千葉大学の、そこかしこに歴史が隠れている!?

11 TOPICS

